

四谷の

千枚田だより



第 259 号



令和六年度 四谷の千枚田地域 振興協議会の開催

開催日 令和七年三月二十五日

開催場所 市民センターほうらい

実施主体は四谷の千枚田地域振興協議会に参加する鞍掛山麓千枚田保存会、四谷集落協定、四谷区長、NPO法人国内産米の粉伝統食文化推進ネットワーク、横浜ゴム(株)新城工場、チームTAKO、愛知東農業協同組合、(公財)農林業公社しんしろ、愛知県新城設楽農林水産事務所建設課及び農政課、新城市産業振興部農業課で構成。事務局は鳳来総合支所地域課に置かれている。

会長の小山舜二は冒頭に、挨拶を兼ねて令和六年度の主なできごとを会員と共有した。

この協議会は令和三年四月十六日、国の「指定棚田地域振興活動計画」として五年の時限立法で成立、認定され、今年が五年の最終年度になる。つい先週の金曜日の昼過ぎに「改正棚田法案」が衆議院で可決され、このあと、参議院で可決すれば成立(継続)との情報を得た。

①一昨年、昨年のこの協議会に於いて千枚田の作業道を中心にした施設の再整備は昨年の十二月二十五

日、財務省折衝で却下されてしまっただが、引き続き要望してゆく。

②九月二十八日、新城市功労者表彰において「表彰状」を受彰。

③十一月四日、「農水省むらの宝」で東海農政局長賞を受賞。

この協議会関係では丸八製菓さんには古米のつなぐ数々の協力を頂いており、横浜ゴム新城工場さんには新人幹部社員研修や外来植物駆除、また、奥三河パワートレイルランニングの沿道整備などの協力を頂いている。また、チームTAKOさんは千枚田に賑わいをと案山子設置など、観光客に大好評。嬉しいことに、JA愛知東こども農学校二十周年記念式典には記念講演をさせて頂いたなど、皆さんには「四谷の千枚田」の保存継承に大きく携わって頂き、心からお礼申し上げます。昨年は、稲の開花期の長雨による受粉の不具合や刈り入れ時の焼けるような暑さ、ニホンジカ、サル被害が頻発、耕作者には決して良い年とは言えなかったが、頑張っている。以上、冒頭に昨年度を振り返り、挨拶いたします。

協議事項
本会議は、規約第十二条第二項に基づき小山会長が議長に、議長

名で議事録署名人を四谷集落協定代表の村雲伸一さん、四谷区長の松下誠さんとし、議事を進めた。

令和六年度四谷の千枚田地域振興協議会活動内容が事務局から項目別に(1)棚田等の保全(2)管理面積の維持(3)耕作放棄の防止(4)削減では千枚田入口周辺、ふれあい広場、農道、周辺林地、無住地の荒廃農地等の草刈り、水路の除伐、稲作勉強会、(5)棚田等の保全を通じた多面におたる機能の維持・発揮(6)農産物の供給の促進では千枚田五平餅として古米の出荷販売、新米の限定販売(7)ルマ達成)。(8)自然環境の保全・活用ではアフリカ地域「稲作のための中核的農学研究者の技術研修(国際協力機構)」。地元鳳来寺小学校、豊橋調理製菓専門学校、愛知東農協こども農学校、ヤマサちくわなどの稲作体験。市内千郷小学校、鳳来寺小学校の校外学習、(9)良好な景観の形成ではリアル案山子の管理など。

(10)棚田を核とした棚田地域の振興(11)棚田における都市農村交流を通じた関係人口の創出・拡大による地域振興ではお田植感謝の夕べ(四百人)、収穫感謝祭(百五十人)。第七回「四谷の千枚田絵画コンクール」(応募数五百八十三点。四谷の千枚田だよりを毎月発行、新城市HPによる情報発信を継続(現在二百五十八号)。棚田米を活用した六次産業化の推進では千枚田五平餅を郵便局を通して通信販売、道の駅でも販売(八雲だんご)等々が報告、協議はスムーズに可決終了した。

春の雪 3月19日、倒木などでインフラ被害あり



うるち米 ミネアサヒ 3年連続通算4回目の受賞

2024年産の米のおいしさを示す食味ランキングが2月28日に発表され、三河山間地区の「ミネアサヒ」が最高位の特Aを受賞した。この受賞は通算4回目の受賞である。そもそもミネアサヒは愛知県総農試(山間農業研究所)で海拔400m付近の奥三河、中山間地域に適応した品種として開発、奨励。

現在では更に「いもち病にも強い品種として改良」三河山間地域でも「粒は小粒だが、喉ごしの食感、冷えても旨い…」と好評な品種でもある。ミネアサヒは栽培適地、作付け面積も限られ、生産量が極めて少なく、食べては旨いが、入手困難なことから「幻の米ミネアサヒ」として好評である。

新入・幹部研修

四月三日、保存会(高橋孝行 夏目 宏一 小山孝夫 中村直人 松下 誠 田中幸男夫 小山舜二)は横浜ゴム 新城工場新入社員(二十二名)、幹部及びサポーター(十名)の千枚田研修を実施した。研修の初めに、保存会長は「まずは、就職、ありがとうございます」と、平成十八年から貴社の研修受入れを行っている。研修の経緯は皆さんの大先輩、たつき上げの藤沢業務課長さんとの出会いから「工場の排出ガスの削減に敷地内に広葉樹(ドングリなど)の植栽を、その育苗に千枚田の稲藁を敷き藁にすれば環境貢献行動に成りうる。等々を熱論した記憶が蘇る。その後、「千年の杜」構想が実現、藤沢さんからは私を「顧問」にとのお話もあったが、やんわりとお断りした。おかげで、千枚田の藁を購入いただき、耕作者は「藁を買ってもらえるから田んぼを作るんだ」と大喜び。

これがきっかけに同社が取り組む環境保全(河川生物モニタリング調査。ビオトープ造成管理・外来生物駆除)。また、奥三河トレランの沿道整備活動などを通して絆は深い。私は「企業は環境に配慮する責務・地域貢献が当然の義務である」が持論で、貴社は、それを忠実に実行する凄い会社であると評価している。今から高低差二百以上の多様性に富んだ四谷の千枚田を皆さんと一緒に体感する。

新城市長 皆様、こんにちは「ようこそ新城へ」市長の下江洋行でござ

います。はじめに、横浜ゴム株式会社 新城工場へのご入社、誠におめでとうございます。「中略」さて、ご覧いただきました通り、この棚田今日までこの美しい風景を保全することができています。これもひとえに保存会の皆様の日頃の活動の成果によるもので「本市の宝」と言える場所となっております、多くの方に訪れていただいています。

新城市はネイチャーポジティブ宣言、そしてカーボンニュートラル宣言もしました。そして「低酸素なまち」を実現するため、再生可能エネルギーの導入などを進めています。横浜ゴムさんはすでにカーボンニュートラルの実現に向けた取り組み(南工場)が行われています。

これからも皆様と一緒に生物多様性・環境保全対策等に取り組んでいかなければならないと思います。**愛知県新城設楽農林水産事務所**

所長の三宅でございます。まずは就職おめでとうございます。(中略)私も四月一日に赴任したばかりですが、皆様の横浜ゴム新城工場様は環境意識の高い会社であるとお聞きしております。

この四谷の千枚田は令和五年度に「つなぐ棚田遺産」に認定、四季を通してこの素晴らしい景観、環境保持には保存会の皆様、また横浜ゴムさんなど、多くの皆様のお力、ご理解をお願いする次第でございます。今後とも皆様の協力をお願いいたします。

概要説明 吉野研修リーダー、細部

については会長が湧き水の棚田、火山活動による転石の石積棚田(日本三大石積棚田)、モリアオガエル、山崩れの話など、特に環境を重視した説明を多く行いながら約一時間でふれあい広場に到着。

交流会

まず、サプライズに早朝、霊験あらたかな設楽町の田峯の観音様で「開運祈願巻」を買って求め、お参り。新入社員には就職祝いと身体安全。幹部社員は業務安泰。列席した行政職員には新年度の業務遂行。保存会員は豊作祈願として、それぞれおもてなし。皆んな真面目に祈願巻を頬張りながら保存会の松下(会計)の軽快な司会で新入、幹部社員はてんで出身地、将来の希望などを紹介。新入社員は(概ね)「一日も早く職場になれ、お金を貯める」が多く、一人だけ「将来は社長」と勢い込んだ。出身地の多くが豊川、新城周辺であり、安定した会社であることが伺われた。幹部社員は真面目に働いたおかげで、幸せな家庭を築いた。等々であった。

廣川業務課長 保存会、県、市の皆さんに本日の新入社員の激励に感謝の言葉が、社員には、今一番大切なことは環境を保全することである。保存会の皆さんは、様々な条件にも屈せず、棚田を守っている、これが、本日の環境保全である。とべた。

研修最後に、新人・幹部社員全員がふれあい広場から眼下に広がる棚田に「四谷の千枚田 ありがとう」と大発声 頭を下げた。全員が頭を

下げた時、木霊がありがとうさまと、心地よく響き返ってきた。



田植えシーズン到来

早くは四月二十日頃から荒代を掻き、順次代掻きが始まる。ゴールデンウィーク頃から田植えが始まり、五月の二十日頃まで続く。この頃、千枚の水鏡が映える。

千枚田は急傾斜地で転石により構築された棚田であり、多くが籠田で、日々の保水管理が大変である。百姓は、そこらへんは充分弁え、己のわがままは通さず、お互いに、歩調を合わせあっている。だから、ボケておれんし、丈夫なんだ！

行 令和七年四月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二